

2017年・年末のご挨拶

■アブダクション研究会の皆様には、年末の慌ただししい所用を片づけられ、今ごろはやっとのことで、気持ちもゆったりと豊かな時間をお過ごしのことと拝察を申し上げます。

■2017年の1年間に開催してきましたアブダクション研究会の内容は次のようになります。

(1) 2017年1月28日(土)に開催しました第112回アブダクション研究会は、『持続可能性を確保する広域的で高次の知識と行動を考える(1)』という重要なテーマで、アブダクション研究会代表・世話人の福永征夫が 1. 理論的な枠組み 2. 歴史的な事実 について説明発表をさせていただきました。当日は八尾 徹氏が出席されて、活発かつ有意義な議論を展開することができ、今後につながる成果を挙げることができました。

(2) 2017年3月25日(土)に開催しました第113回アブダクション研究会は、『「光の場、電子の海----量子場理論への道」吉田伸夫著/2008新潮社/を読んで、粒子や場とは何かを学ぶ』という重要なテーマで、大河原敏男氏、八尾 徹氏、と世話人の福永征夫が、分担をして、解説発表を進め、議論を展開して、大変に有意義な研鑽の機会を得ることができました。

(3) 2017年5月20日(土)に開催しました第114回アブダクション研究会は、『ユクスキュル/クリサートに学ぶ「生物から見た世界」(2005・岩波文庫)』という重要なテーマで、齋藤 帆奈氏(ガラス・アーティスト/モデル)に解説発表をしていただき、同時に議論を進めて、大変に有意義な研鑽の機会を得ることができました。わたくし(世話人)並びに、出席された町田藻映子さんと、即時の対話と意見交換をしながら、進めることができたのも、お互いにとって、大変に良い経験になったのではないかと思います。

(4) 2017年7月29日(土)に開催しました第115回アブダクション研究会は、『「量子力学で生命の謎を解く」／ジム・アル＝カリーリ&ジョンジョー・マクファデン著(2015・SBクリエイティブ)／を輪読研究して量子生物学の知見を学ぶ』という重要なテーマで、大河原敏男氏と世話人の福永征夫が分担し合って、20世紀における困難な離陸を果たして発展の道を模索する量子生物学という21世紀以降の広域学の最重要分野のパイオニアによって示された新たな知見の入り口を有意義に研鑽する機会を得ることができました。

(5) 2017年9月30日(土)に開催しました第116回アブダクション研究会は、『ルース・G・ミリカンに学ぶ「意味と目的の世界」(2007/勁草書房)』という重要なテーマで、伊藤万利子氏(早稲田大学)に解説発表をしていただきました。ミリカンのこの著作は、進化論の観点から、〈心〉と〈言語〉と〈生物〉を統一的に理解して、生物学の哲学に新しい理論の地平を開こうとする、自然主義の革新的な仕事のひとつとされています。

(6) 2017年11月26日(日)に開催しました第117回アブダクション研究会は、『「数学の大統一に挑む」／エドワード・フレンケル著=2015文藝春秋／を輪読研究して壮大な数学プロジェクトの意義を学ぶ』という重要なテーマで、大河原敏男氏と世話人の福永征夫が解説発表を分担し合うとともに、北村晃男氏の積極的な参画を得て、異なる数学の領域に架け橋をかける「ラングランズ・プログラム」の概要とその本質に関する基本的な理解につながる貴重な研鑽の機会を得ることができました。

■以上のように隔月に開催しているアブダクション研究会では、持続可能性を確保する「高深度・広域・高次の知識と行動」を探究するために、(イ)われわれの領域的な知識のリストに大きな穴がないようにすることと(ロ)領域的な知識の間に、広域的で高次のつながりをつけること、の2つを目指しています。その意義と重要性と改めて理解し、認識していただきたいと存じます。

■ご参加いただいた会員の皆様には、それぞれのプロセスでのご苦勞を多として、そのご熱意とご貢献に心から感謝しお礼を申し上げます。

■しかし、大きな問題や課題がないわけではありません。

10年を1世代としますと、1996年に設立したアブダクション研究会は、第1世代の誕生期、第2世代の成長期、の活動をベースにした第3世代の発展期に入っています。

この3年ほどの間に、第2世代をリードされたメンバーが相次いで療養生活に入られたのは、われわれにとって大きな痛手になりました。

■来年は、アブダクション研究会に在籍しておられる、すべての方々には、それぞれの初心に立ち返っていただいて、コミットメント（関与）を強めていただくようお願いしたいと存じています。

会員として、レポートやホームページをフォローし、進行中の事柄をご理解いただくことと、会員としてのコミットメントの責任を果たしていただくこととは、まったく別のことなのです。

■最近の学術の動向、並びに世情では、噴出し顕在化している地球規模の難題に対処するために、高深度・広域・高次の知識を探求して実践に結びつける、広域学に対する理解と期待が高まりつつあることは、たいへんに心強く嬉しい限りでもあります。

■そのポイントは「自己や人間という部分域」の高深度の最適化を図るベクトルと「他者や生態系を含む全体域」という広域の最適化を図るベクトルを相補的に融合させ、高次の知識を実現して、実行することにあります。

■この2017年は、世界各国の国内でも国際的にも世界的広域市場の形成を目指すグローバリズムと、国の主権による民族文化と利益の尊重を目指すナショナリズムの激しい相克の潮流がはっきりと顕在化した歴史の節目とも呼ぶべき年でもありました。

■人間という種の絶滅を回避するには、二つの相補的なベクトルが共進化を達成して、融合と高次化への道をたどる以外に選択肢はなく、これが世界の安定装置としてのわが国の進路であるのかも知れません。

■2017年における皆様のご努力とご協力に重ねて御礼を申し上げ、新しい年における益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

2017・12・31
アブダクション研究会
代表・世話人 福永 征夫